

二〇一三年度

A

国語

(1)

【注意】答えはすべて解答用紙に書きなさい。

受験番号

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

子供の頃、僕はとにかく負けず嫌いであった。ジャンケンポン。僕が出したのはグーでもチョキでもパーでもない、そのどれともとれるようなもので、相手が出したのがチョキならば、微妙なタイミングで指を動かし、グーにしようのだった。

小学校の高学年の頃に、僕よりも負けず嫌いな男の子がいた。小田原一馬は父親の仕事の関係で東京から転校してきた。転校初日の挨拶の時から、①負けず嫌いが全身から迸っていた。

「小田原一馬です。一馬とは一番早い馬という意味です。かつこでは誰にもまけたことがありません」

勝ち誇ったような顔つきが男子から疎まれて、いつまでたつてもクラスに馴染めず、なかなか友だちがでなかった。可哀相だな、と思い、僕は一馬に声をかけた。

「同じ方向やけん。一緒に帰る」

一馬はうれしかったのだろう、僕んちで遊ぼう、と言った。

一馬の家は立派な二戸建ての家だった。一馬の部屋には沢山の玩具があった。戦車や戦闘機のプラモデルが部屋中とこそこそまじと並べられていた。

「すごかね。全部おまえのや？」

一馬は、②うん、と微笑み、戦争ごっこをしよう、と言ってきた。ところがかれが僕に貸してくれたのは古ぼけた戦車と弱そうな戦闘機だけであつた。これじゃあ勝負にならない、と抗議をすると、ダメだもんね、と言って喜んでいいる。仕方がないので、両手に沢山のプラモデルを抱えているところを素早く攻撃していった。

「ああ、ずるい。卑怯だぞ」

「あなたが卑怯ね。そっちの方が卑怯やなか。そんなに沢山抱えとつても使えんとやたらどげんしようもなかった」

結局その日僕たちは喧嘩をしてしまい、僕は一馬君を泣かしてしまった。我慢じやないが、僕は今も昔も言葉では誰にも負けたことがない。子供の頃から、③口げんか道十段なのであつた。とにかく、口げんかの場合、相手に考える隙を与えてはいけない。相手の弱点を見つけ出してそれを次から次に攻撃していくのである。

「卑怯もん、男の風上にもおけん奴つたいね。おちんちんついとどうとや？ いまだにおねしよばしとるとやなかと。おねしよばして押し入れに布団は隠しとちやろ。そっちが遊びに来てよって言ったけん来たつちやろが。遊びに来てやつたに玩具も貸してくれんちやけん、だけん、いつまでも学校になじめんとよ。友だちができんでもよかとね？ みんながおまえんこつばなんといふるかしたと。あんまり東京東京って言わんほうがよかつた。心ば入れ替えんと、これから大人になつてからますます困るつたいね。ついでに、お前のかあちゃんでべそ」

一言一言を投げかけるとき、ラッパがそうするように身振り手振りをまじえるのだ。宙を舞う華麗な掌の動きに相手の視線が止まってしまえば、もうこちらのもの。まもなく敵

は圧倒的な言葉に打ちのめされ怯むことになる。怯んだらさらに次の言葉をぶつけるのである。容赦をしてはいけない。腕力に自信のある奴でも、言葉に圧倒された時には思考が停止してしまい、暴力が振るえなくなるものなのだ。

しかしここで一つだけ上手な口げんかの仕方をお教えしよう。最初は相手の弱点を攻めて、怯ませ、動けなくさせて、言葉の力で押さえ込むのがベストな戦略だが、最後までそれではいけない。相手を追い込むのは得策ではない。攻撃だけしていると、後味が悪いというのもあるが、恨みを持ち越すことになる。だから後半は、お前は決して悪い人間じゃない。ただ考えが甘いだけだ、と遠回しに味方になってやるのである。

お前は可哀相な奴なんだ、だから俺はお前の味方、世界でただ一人の理解者なんだ、と駒を進めるのである。すると恨みを翌日まで持ち越すことは少ないし、④口げんかに勝つたという後味の悪さからこちらも抜け出ることができる。

それから口げんかの一番最後には必ず、お前のかあちゃんやべそ、と付けるのがもつともポピュラーな戦略である。何故、母ちゃんやべそがいけないのかはいまだにわからないが、昔から口げんかの締めは、お前のかあちゃんやべそ、と相場は決まっているのである。決まっているものには逆らわない方がいい。

ちなみに、おねしよをして布団を押し入れに隠していたのは何を隠そうこの自分であつた。僕は小学校の高学年までおねしよつたれだったのだ。つまり口げんかにおいては、相手の弱点が見つからない場合、自分の弱点をさも相手の弱点のように投げつけてみるのも手だったりするのである。

「よか。泣けばよかった。⑤うんと泣いてすつきりすればよかと。人生なんてそげんもんたい。これで二人の友情は本物になる」とよ

その時、一馬のお母さんがお菓子を持って部屋に入ってきた。泣いている一馬を見つけて、どうしたの、と聞いた。一馬は僕を指さした。

「かずちゃんに何をしたの？」

お母さんは明らかに一馬の味方であつた。最初から僕が悪いという態度であつた。ありがちな、と子供ながらにがっかりであつた。⑥この子にしてこの親か、やれやれ。

「お母さん、これは子供の問題やけん、口ばださんでください」

まあ、と一馬のお母さんは唸った。

「一馬がお友だちを連れてきたから珍しいと思つて期待していたのに、こんなおかしい友だちを作っちゃいけませんよ。明日校長先生に抗議ときますね」

一馬のお母さんは一馬を抱き寄せて、そう言ったのである。僕はあいた（⑦A）がふさがらなかつた。なんで校長なんだろう、と考えた。このお母さんも一馬同様負けず嫌いで、担任より校長の方が格が上だと思つていたのかもしれない。一馬の負けず嫌いはとどまるところを知らなかつた。とにかく

二〇一三年度

A

国語 (2)

[注意] 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

受験番号

くなんでも自分が一番じやなければ気が済まないのである。一番に給食を食べ、一番に宿題を提出し、テストも一番。確かに勉強は出来たし、運動も出来たが、(⑦B)についた。ク拉斯の連中の響壁をどどん買っていくのであった。

そんなある日、一馬と番長のクニヤンとが言い合いになった。

「一馬、お前は誰よりも足が早いって自慢しとてばってん、お前よりも早い奴がこの組にはおるつたいね」

「ふん、僕よりも早い奴なんていないもんね」

「じゃあ、お前そいつと勝負してみてん。そして負けたら、明日坊主頭にしてこいや」

クニヤンのいう早い奴というのは、鹿兒島から転校してきたばかりのゴワスこと新道孝之であった。

ゴワスは見かけはところかつたが、足だけは異常に早かった。かくして放課後一同はグラウンドに集まった。クニヤンが合図を出した。二人は一斉に走り出した。勝負は互角だったが、僅かにゴワスの方がリードしていた。最終コーナーに差し掛かった時のことである。突然二人は転倒してしまふのだった。二人の体が接したからだだったが、明らかに一馬がゴワスのシャツをひっぱったのである。倒れた一馬はすぐに起き上がり一番でゴールインした。

「てめえ、ゴワスのシャツはひっぱったろうが」
クニヤンは怒った。

「ひっぱらない。あれは事故だよ。でも僕は最後まで全力で駆け抜けた。やっぱり僕が一番だって見せつけることができてうれしい」

ゴワスがやってきて、もう一度勝負しろ、と叫んだ。

「いや、だめだね。今の試合で僕は足を傷めた。これが直るまでは勝負はできない」

なんと負けず嫌いな奴。でも僕はちよつとうれしくなったのだ。⑧ここまで負けず嫌いだと気持ちがいいものである。僕は放課後、一馬と一緒に帰った。

「なあ、今度は僕んちによつていかんね」

⑨一馬は警戒していたが、ああ、と従った。社宅の狭い部屋にあがると、一馬は家中を物珍しそうに眺めた。こんなところで暮らしているの、気の毒だね、といわんばかりの顔つきで。玩具箱に戦車や戦闘機のプラモデルが沢山あるのを発見し、一馬の目に輝きがでた。

「戦争ごっこしようか」

「うん」

僕は丁度半分ずつになるようにプラモデルを分けた。ところが一馬は気に入らないのである。僕が持っていたスピットファイアーを取り上げ、しまいにシヤーマン戦車も取り上げられてしまった。僕の手元にはジープと第一次大戦時の複葉機しか残らなかった。

「ずるか。なんでそげん負けず嫌いや」

「だって、絶対に負けたくないもん。強いものが好きなんだから」

「そんなんじやつまらんやろうもん」

「つまる」

「返せ」

「いやだよ」

僕が一馬から戦車と戦闘機を取り上げようとしてしているとそこへ母さんがお菓子を持ってきて入ってきた。

「ヒトナリ！ なんばしよつと。お友だちが来たら、半分ずつっていつも言うてるやろ。遊びに来てくれたんだから、気兼ねさせてはいかんよ。よかね。わかったと」

⑩一馬はきよとした顔で僕と母さんのやりとりを見ていた。母さんがお菓子を置いて出ていくと、

「辻君のお母さんは辻君のことを愛していないの？」

と聞いてきた。

「なんで？」

「だって君が怒られてたじゃん」

そういうものかな、と僕は一晚そのことについて考えた。一馬君の味方になった一馬君のお母さんと自分の母さんとを僕は比較してみたのだ。一瞬、一馬君のお母さんの方が優しく見えたと、眠りに落ちながらも僕は首を横にふった。母さんはいつでもどこでも、電車やバスの中でも、理不尽なことをしている子供には怒る。いいことをしている子供にはいつでもどこでも、電車の中でもバスの中でも、きちんと褒める。つまり母さんの愛は広いのだ。そうか、そういうことか、やれやれ。結局、僕は安心して眠ることになったのだ。

一馬は転校してきてから僅か四カ月で再び転校することになった。父親の仕事の関係だということだったが、一馬は僕にだけ事情をあかした。

⑪母さんがね、この学校は僕には合わないって言うんだ。僕の人格を歪めるってさ。それで私立の学校に移ることになった」

僕は驚いたが、あのお母さんならやりかねないことであつた。「でも、辻君。辻君となんだか友だちになれそうな気がしてた」別れ際、最後に彼が言った一言が僕はうれしかった。

⑫僕もそう思うつたいね」

そう僕は笑いながら言った。

(辻仁成『そこに君がいた』)

注1 ラッパー：ラップという歌唱をする人。

注2 響壁：不快に感じて顔をしかめること。

注3 スピットファイアー：複葉機：スピットファイアーとシヤーマン戦車は第二次大戦期の兵器。ジープは軍用車。複葉機は、つばさが上下二枚ある古い時代の飛行機。

注4 理不尽：道理に合わないこと。

*問題の都合により表記を一部あらためた。

二〇一三年度

A

国語 (3)

〔注意〕答えはすべて解答用紙に書きなさい。

受験番号

問1 傍線①「負けず嫌いが全身から迸っていた」とあるが、どんな点からそのように感じたのか、説明しなさい。

問2 傍線②「うん、と微笑み」とあるが、この時の一馬の気持ちを説明しなさい。

問3 傍線③「口げんか道十段」とはどういうことか、説明しなさい。

問4 傍線④「口げんかに勝ったという後味の悪さ」とあるが、なぜ口げんかに勝つことは後味が悪いのか、説明しなさい。

問5 傍線⑤「うんと泣いてすつきりすればよかと。人生なんてそげんもんたい。これで二人の友情は本物になるとよ」という言葉は、「僕」のどのような戦略が表れたものか、本文の内容にそって答えなさい。

問6 傍線⑥「この子にしてこの親か、やれやれ。」とあるが、僕のどのような考えがわかるか、答えなさい。

問7 本文中の(⑦A)(⑦B)には体の一部を表す語が入る。それぞれ漢字で答えなさい。

問8 傍線⑧「ここまで負けず嫌いだと気持ちがいいものである」とあるが、それはどうしてか、説明しなさい。

問9 傍線⑨「一馬は警戒していたが」とあるが、それはなぜか、答えなさい。

問10 傍線⑩「一馬はきよとした顔で僕と母さんのやりとりを見ていた」とあるが、この時の一馬の気持ちを説明しなさい。

問11 傍線⑪「母さんがね、この学校は僕には合わないって言うんだ。僕の人格を歪めるってさ」とあるが、一馬の母親がそのように考えたのはどうしてか、問題文から考えられることを答えなさい。

問12 傍線⑫「僕もそう思うたね」とあるが、僕も一馬と友だちになれると思ったのはなぜか、説明しなさい。

□ 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

① 寒さでキョクゲン状態になる。 ② 飛行機のモケイを作る。 ③ ゴミをヒロウ。 ④ 郵便をハイタツする。

⑤ その事件のシンソウを知りたい。 ⑥ いいカゲンな答え。 ⑦ ハイイロのねずみ。 ⑧ カモツを船で運ぶ。

⑨ ジギヒツのサインをもらう。 ⑩ テンランカイに行く。 ⑪ ザツシを読む。 ⑫ ギムと権利。

⑬ それは正夢かもしれない。 ⑭ 無下にことわれない。 ⑮ かわいい幼子。 ⑯ ボールが転がる。

⑰ 雨が夜半に降り出した。 ⑱ 若い選手が台頭する。 ⑲ 木の葉が黄ばむ。 ⑳ 旅行して見聞を広める。

二〇一三年度

A

国語

(4)

解答用紙

受験番号

—

問 12	問 11	問 10	問 9	問 8	問 7	問 6	問 5	問 4	問 3	問 2	問 1
					A						
					B						

二

①	⑤	⑨	⑬	⑰
②	⑥	⑩	⑭	⑱
③	⑦	⑪	⑮	⑲
う				ばむ
④	⑧	⑫	⑯	⑳
			がる	